

新年特別号「『ことばの本質』に思いを馳せる」

—世界に通じる力を育てる— 第 81 号

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

NPO 法人多言語広場(ピアザ)CELULAS の尾本です。(以後セルラスと表記します)

皆さんはどのような年末年始をお過ごしになられたでしょうか？

私は静岡の実家へ帰り、両親や親族と昔話で大いに盛り上がりました。

その時に「風景の共有」というもののすごさを改めて感じました。

日本人同士ですから、当然のように日本語で会話は成立させることはできます。

しかしお互いに共有している風景の話は、あっという間に全てが分かり合えるので
とっても楽しいのです。

私たちの活動拠点で週に 1 回各地域で行っている「ピアザ」でも

「場面・ことばの共有」があるからこそ、お互いに伝え、受け止め合え、
そして楽しいのだと感じています。

今年もセルラスはそんな「言語場作り」に邁進していきます！

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年最初のメルマガは新春特別号として、

当法人理事長の鈴木隆志が、新年のご挨拶と、

「ことばの本質・言語場」について書かせていただきました。

最後までお読みくだされば、今年、人との関わり方を
変えるきっかけになるかもしれません。

『ことば』の本質とは」

NPO 法人 多言語広場 CELULAS 理事長 鈴木隆志

明けましておめでとうございます。

いつもセルラスメールマガジンを

ご愛読下さいますありがとうございます。

毎年年末になると、その年のことを振り返るのですが、

昨年も嬉しいことがたくさんありました。

その中でも、インドネシアからの留学生 I 君

(現東京工業大学 准教授) が昨年末、

日本人女性と結婚しました。

お祝いに大勢のセルラスメンバーが駆けつけ、
笑いあり涙ありの素敵な披露宴になりました。

I君は大学生の時、セルラス主催の青少年サマーキャンプに
留学生リーダーとして参加し、それ以降ずっと私たちとの
関係が続いています。

セルラスの様々な活動に参加してくれた彼は、
子どもたちにも私達にも大きな影響を与えた留学生の
1人でした。

「多くの留学生との交流を通して人との繋がりが、
強い絆で世界に広がっていく…」と感じた1日でした。
次の結婚は誰かな？と今から楽しみにしています。

さて、昨年12/23から青少年たちが、メキシコホームステイ交流に
出かけました。1/4に帰国した彼らの報告を聞くのがとても楽しみです。

私もメキシコホームステイを経験したことがありますが、
その経験が私の外国語習得についての考えを、大きく変えるきっかけになりました。

【ことばは1人歩きしない】

当時、私はスペイン語のCDを聞き、言えるところをたくさん覚えて
メキシコ行きの準備をしました。

現地に行って最初に直面したのが、音の言えるスペイン語を
こんなに持っているにも関わらず、周囲のことばと自分のことばが
かみ合わないという事実でした。

もちろん音が言えるのと、その状況に適したことばを話すのとは違います。
しかし当時の私は多少でも意味が分かっていることばも持っていたため、
その持っていることばだけで相手のことばを聞こうとしました。

すると圧倒的に知らないことばの山にぶつかってしまったのです。

【人と向き合う】

その後様々な経緯がありましたが、私はことばにとられるのをやめ、
まずは相手と向き合い、そして「ことば」をその風景や状況、動作表現、
前後の出来事などを一緒に全身で受け止めていくようにしました。

次第に自分の中にあるスペイン語の音が呼び起こされ、共鳴して意味化されていくようになっていきました。

その時はっきり気付いたことは

「ことばと向き合うのではなく、人と向き合うのだ！」ということです。

【言語場】

私たちは「多言語習得」を活動の柱としていますが、日本語を含め、どんなことばであれ、

「相手としっかり向き合い、相手のことばを受け止め自分の意思を伝える」

という基本的なコミュニケーションのスタンスがなければ、

ことばをいくら丸暗記しても「人と話すことば」としては育たない、と考えています。

日常でことばを受け取りあえる仲間や環境（言語場）があること。

そしてそれらの人々と自ら積極的に関わりを作り出していくこと。

それらを通して人間はことばと人に向かうスタンスを見つけていくのでしょうか。

やがて、そのスタンスを持っている人は、どんな国のどのような人とも

向き合い、関係を作り、世界を自ら広げていける人材となっていくのです。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックが近づいて来ました。

入国管理法が改訂され、AI（人工知能）、外国語翻訳機などが目覚ましい進化をとげ、今年は今更なる変化が世界中で起きることでしょう。

しかし、あらゆる意味で、「人と向き合う大切さ」は、どんな時代になっても人類が失ってはならない基本的な姿勢なのです。